

文部科学省
新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
2023年度（令和5年度）事業活動報告書



第1回探究 Day 2023年7月18日



第2回探究 Day 2024年3月6日

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校

目次

〈目次〉	1
〈巻頭言〉	2
「新時代に対応した高等学校改革推進事(普通科改革支援事業)」行事	3
第Ⅰ部 令和5年度事業の実績	4
(1) 事業の実施日程	5
(2) 事業実績説明	5
(3) 新学科の設置及び設置に向けた検討状況及び関係者への説明の実施状況	9
(4) 成果普及のための取組	10
(5) 他の事業との関係	11
第Ⅱ部 「探究」の推進	12
(1) 2023年度(令和5年度)「総合的な探究の時間」活動状況	13
(2) 生徒成果物	29
(3) 「鳳鳴カルーブリック」「探究カルーブリック」と生徒自己評価	46
第Ⅲ部 グローバル人材の育成	53
(1) シアトル研修	54
(2) 国際交流バスツアー	56
(3) JICA 関西訪問、他	57
第Ⅳ部 新学科設置に向けた教員研修等の充実	58
(1) STEAM 教育研修会	59
(2) ファシリテーション研修会	60
(3) コーディネーター研修会	61
(4) 先進校(先進企業)視察	66

はじめに

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校長 樋口 一哉

「普通科改革支援事業」、3年間の国事業の1年目が終わろうとしている。今年は、兵庫県の事業「高大接続改革推進事業」の最終年度と並行して進めてきた。校内で混乱を生む場面もあったが、本県の事業「高大接続改革推進事業」で積み上げてきた成果を新学科「STEAM 探究科」の設置に活かすことを目標に全力で走った1年であった。

私が学んだ昭和の時代は高度経済成長時代と言われ、あらゆるものを失った戦後から、日本が貪欲に求めた結果、飛躍的に成長した時期だった。時は、平成を経て令和の時代へと移り、あらゆる欲求が満たされ、情報や物で満ちあふれている時代とも言える。多くの選択肢が提示され、これから活躍する生徒が、自身が没頭できる対象などを見つけることは至難の業かもしれない。スマホやタブレットがあれば全てを解決すると誤解している生徒がいても不思議でない。

より高度な情報化社会となり、少子高齢化がさらに進むことは確実で、今学校現場は大きな変革が求められている。こうした時代を生き抜くために必要なことは何なのか。受け身なままだと翻弄されるが、前向きに現状を捉えることによって「自分たちの未来」を自分自身の手で築き上げるチャンスを内包する社会がそこにあると伝えたい。

これからの社会は、自分で考えて行動できる人材をさらに求めるだろう。つまり、協調から自立、知識から知恵への変革の時代でもある。知っていることを実践して初めて「知恵」に変わる。まさに、本校が目指すSTEAM教育である。経験に基づいた知恵を養い、「生涯にわたって学び続ける力」「多様な学びを総合する力」「新しい価値を生み出す力」を高校時代に身につけさせたい。本校が新設する「STEAM 探究」とは、このような力を育てることを狙っている。

令和6年度、いよいよ新学科「STEAM 探究科」がスタートする。まだまだ、課題が多く今年1年の反省を本事業の残された2年間で「探究」して軌道に乗せたい。

最後に、連携大学としての兵庫教育大学副学長 吉水裕也教授、森山潤教授からは、貴重な情報を常にいただいた。また、運営指導委員、コンソーシアムの委員のみなさんにも大変お世話になった1年であった。この事業を進める上で指導助言をいただいた兵庫県教育委員会をはじめ多くの方々のご理解、ご協力により事業を進めることができた。この場を借りて感謝申し上げたい。

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」行事

	探究活動の充実	グローバル人材の育成	職員研修 授業改善	その他
4月				
5月				①1回校内会議 ⑦2回校内会議 ⑮3回校内委員会
6月	⑳英語プレゼン(3年4組) ※2年4組見学			⑤4回校内委員会 ⑫5回校内委員会 ⑫6回校内委員会
7月	⑱第1回探究 Day (全校行事1~3年) ㉑三校合同中間発表会 (2年4組) ㉒アカデミック・インターンシ ップ(3年4組、神戸大学)	㉑~8/1 ミシア トル研修(希望生徒)	㉑STEAM 教育研修・ (兵庫教育大学:森山 潤教授)	③7回校内委員会 ⑩8回校内委員会 ⑬⑭コーディネーター研修
8月	班別フィールドワーク(1、 2年)		⑳ファシリテーション研 修(兵庫教育大学:宇 野宏幸教授)	⑰第1回コンソリアム運営委員会 ㉒第1回運営指導委員会 ⑱~⑲西はりま天文台 宿泊研修 ㉑コーディネーター研修
9月				⑲9回校内委員会 ⑧コーディネーター研修
10月		㉑国際交流バスツ アー(ALT9名と希 望生徒)	⑳~授業研究週間(外 部公開)	②第10回校内委員会 ⑤コーディネーター研修
11月			~⑩授業研究週間 ⑮事後研修会 先進校視察	⑭三校合同ディベート (2年4組) ㉑コーディネーター研修
12月	⑲スライド中間発表(2年4組) ※1-4 見学 ㉑スライド中間発表会 (1年1~3組)	⑮JICA 関西訪問 (1年4組)	⑦3D スキャナ・プリン タ、3D CAD 教員研修 先進校視察	⑭神戸大・関学大訪問 (2年4組) ⑪コーディネーター研修 ㉑第11回校内委員会
1月	③ポスター発表会(1年全体)		先進校視察	⑩コーディネーター研修 ⑰第12回校内委員会
2月	㉑ポスター発表会 (2年1~3組) ⑩兵庫県高等学校探究活動研 究会(県教委主催)で発表(1、 2年希望生徒)		先進校視察	⑰第2回コンソリアム運営委員会 ㉑コーディネーター研修
3月	⑥第2回探究 Day 全校行事(1、2年) ⑦ STEAM Day 3D-CAD(全校生)	㉒~4/4 ミワラワ ラ市短期留学(希 望生徒)	先進企業・先進校視察	⑥第2回運営染地有委員会

○内は日付

第 I 部

令和 5 年度事業の実績



2023 年 6 月

芸術家の OB、OG による校内芸術作品展「アート de エール」
創造力の育成

(1) 事業の実施日程

事業項目	実施日程（令和5年5月10日～令和6年3月31日）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カリキュラムや教育方法等の検討・開発・実施												
STEAM 探究委員会	●	●	●	●		●	●		●	●	●	
外部講師による教員研修会					●				●			
外部講師による展示・講座			●						●			●
シアトル研修					●							
関係機関との連携協力体制の構築・維持												
運営指導委員会					●							●
コンソーシアム運営委員会					●						●	
先進校視察										●	●	●
関係機関（先進企業等）視察								●				●
コーディネーター研修会				●	●	●	●	●	●	●	●	
コーディネーター												
コーディネーター(細見勇人氏)				●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーディネーター(西村安紀子氏)				●	●	●						
コーディネーター(加藤昌宏氏)								●	●	●	●	●
新学科設置に向けた説明会等の実施												
オープンハイスクール				●	●	●						
中学校への説明		●	●				●	●	●			
成果発表・成果普及												
生徒発表会（中間発表・探究 DAY）				●					●			●
アート de エール			●									
小学生指導（たんぱっ子学びフェスタ）								●				
成果検証												
生徒アンケート調査					●				●			●

(2) 事業の実績の説明

① カリキュラムの検討内容

校内 STEAM 探究委員会及びコーディネーターによる新学科カリキュラムの検討

ア カリキュラムのポイント

(ア) 探究内容の拡充

従来行ってきた地域探究の活動を継続するとともに、その中で生徒が身近な課題と考える内容を科学的な視点やデータ分析による視点から検証し、課題解決策が図れる視点を養成する学校設定科目や STEAM 特講を実施する。

(イ) 来年度の外部講師の活用計画

探究をより深化させるために、以下の内容について外部の講師を招聘し、実践的で専門的な知識や技術を習得させる。

- ・データサイエンス ・GIS（地理情報システム） ・宇宙・ロボット技術
- ・3Dスキャニング&プリント技術 ・ドローン活用技術 ・信憑性

(ウ) 文理融合

従来の文理選択を廃止し、生徒の興味関心に合わせた幅広い選択科目を設置する。
また STEAM の「A」をリベラルアーツとして捉え、科学的な分野に限らず、社会分野等様々な分野の学習を通して、総合的な知識や専門性、教養を身につけることを目標としていることを意識して取り組み発信する。

(エ) 単位制の導入

従来の学年制を廃止し、単位制とすることで生徒が学びたい時期に 学びたい内容を学べるカリキュラムとする。

(オ) 学校設定科目の設置

(ア) (イ) で挙げた内容を実施するために従来の教育課程に加えて令和6年度は学校設定科目「鳳鳴探究基礎」、令和7年度は「デジタルメディア」を開設する。

イ STEAM 探究科カリキュラム (別紙資料)

② 令和5年度の事業の実施体制や管理方法について

(ア) 校内組織の改編

- ・コーディネーターとしての校内の役割を位置付け、活動しやすい環境を作る。
- ・校内の探究活動を中心とした教育活動においてコーディネーターの関与を充実させる。
- ・コーディネーターへの校内事業に関する情報の共有化を図る。

(イ) 普通科新学科設置検討委員会 (STEAM 探究委員会) の設置

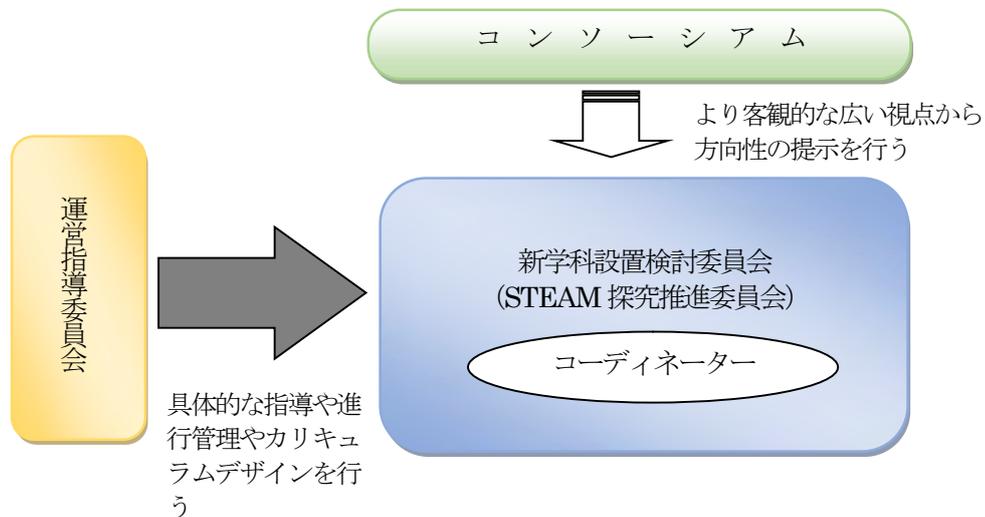
- ・普通科新学科設置に向けた準備委員会 (STEAM 探究委員会) を校内に立ち上げ、コーディネーターを含む委員により組織的に改編を推進

(ウ) 運営指導委員会の開催

- ・運営指導委員会を年間2回開催し、専門的な知見を有する大学関係者、企業関係者 や自治体関係者、地域 NPO 等の委員から助言を受けながら、校内の教育活動に対して進行管理、評価、指導を受ける。
- ・委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言を受ける。

(エ) コンソーシアム運営委員会の開催

- ・コンソーシアム運営委員会を2回開催し、カリキュラムに関して各専門分野の立場 から必要な助言を得て、協働体制を構築する。
- ・探究活動に関する情報や協力体制を構築し、フィールドワーク等の体験的な学び や DX 等の新規分野を開拓する企業等との連携を推進している。
- ・カリキュラムの実施にあたって、必要に応じて、人的、物的な支援を実施。



③ 運営指導委員会の体制および取組

○ 体制

所属	氏名	主な実績
兵庫教育大学（副学長）教授	吉水 裕也	課題解決学習(PBL)に専門的知識を有する
丹波篠山市農都環境政策官	清水 夏樹	探究活動に専門知識や農業政策に関する知識を有する
兵庫教育大学 教授	垣内 敬造	STEAM 教育に専門知識を有する
丹波篠山市役所観光交流部 商工観光課 課長	酒井 誠	関係行政機関の職員
丹波篠山市観光協会 会長	堀 成志	関係機関責任者
丹波篠山市商工会 副会長	大前 裕樹	関係機関責任者
兵庫県教育委員会高校教育課長	新谷 浩一	管理機関

○ 取組

① 運営指導委員会（2回開催）

第1回 8月24日

〈運営指導委員からの主な指導内容〉

- ・地域社会や大学とより繋がること
- ・講師派遣よりも学校が自ら外に出ること
- ・対外的なPRを専門家の力も借りながら行うことが重要（ポスター横断幕等）
- ・教員の意識改革が必要
- ・篠山城についてSTEAM探究することについて提案

第2回 3月6日

〈運営指導委員からの主な指導内容〉

- ・探究を表現するためにできれば40ワット以上のレーザー加工機を入れてほしい。
- ・ここに上がっているデータサイエンス、GIS、ドローン…などができたら素晴らしい。しかしこれでは、私立を含めて全国のSTEAMを導入している高校に、太刀打ちできない。このテーマで鳳鳴ならでは、丹波篠山ならではのものを扱いたい。篠山鳳鳴のSTEAMだからこそ、丹波篠山の資源を活用していきたい。一つはOB・OGの活用だが、これは他の高校でもやっている。だとしたら次はこの環境ではないか。例えばものづくりなら丹波焼・立杭焼きがあるとか。先生の方から提案して篠山色をつけていくのも必要。買う予定の機器を最大限活用する方向に、少しだけ生徒を誘導してほしい。そうしないとせっかく買った機器を使わないことになってしまう。事前に先生方の勉強が必要だが、「こういう機器があるからこういうことがはかれるよ」というように。先生と生徒の二人三脚、そして地元とOB・OGとのつながりといった丹波篠山の鳳鳴高校ならではのSTEAMは、そういう方向、発想でいけばよいのではないか。
- ・「探究」はブランディングのとてもよい機会になる。どんな印象をあたえるかということが大事で、他の学校と比べるとつきぬけてないと、選んでもらえる決め手にならない。つきぬけたPRが必要。米国（ハイテク・ハイ）の高校視察で感じたのは、特別な学校なのでそのままマネすることはできないが、抜きん出ているのは、

アウトプットがすべてビジュアル化されていて、アートになっていたこと。先生方のキュレーションもどういう文脈で見せればよいか、インパクトがあり、発表する生徒の自信にもつながるかといったことも意識をして「探究」を進めていけばよいのではないかと。

- ・「探究」の質がずいぶんあがってきた。それから、実社会につながるテーマ、例えば「バスがうまく走れば生徒の募集にも…」など。やはり 探究と教科とのつながりが見えて、「教科の勉強をせなあかん」と生徒が思ってくれるとありがたい。教科の学習をしっかりとやればリサーチクエストにつながるだろう。二つ目には、篠山鳳鳴ならではの出力の仕方を工夫願いたい。
- ・国の支援事業であるが、3年間の指定が終わると国からの援助がなくなるので、その後（の企業や大学等との連携）をどう継続していくかということも早いうちから考えていくことが必要。次年度以降は、限られた予算のなかで評価し、実走しながら検証することになる。

④ コンソーシアム運営委員会の体制および取組

○体制

所属	役職	氏名
丹波篠山市	市長	酒井 隆明
丹波篠山市教育委員会	市教育長	丹後 政俊
丹波篠山市観光協会	会長	堀 成志
丹波篠山市商工会	副会長	大前 裕樹
兵庫教育大学	教授	森山 潤
一般社団法人 BEET	代表	細見 勇人
合同会社 Rufus	代表（スタートアップ企業代表）	瀬戸 大喜
兵庫県教育委員会	高校教育課長	新谷 浩一

○取組

コンソーシアム運営委員会を2回開催

第1回 8月17日

<コンソーシアム運営委員からの主な助言内容>

- ・多くの協力機関と繋がるために、支援内容ごとの企業リストができないか。
- ・地元企業に限らず STEAM 探究を通じて市外やグローバルな地域企業と繋がるきっかけを作ることが重要。
- ・STEAM 探究では先端技術の内容も学ぶ必要がある。
- ・地域の人知らない地元のいいところを掘り出すとともに、PR の仕方などを若者の感覚で行ってほしい。
- ・探究を3年間で終わらせるのはもったいないので、後輩へ引き継ぐことも意味がある。
- ・企業との連携による企業側のメリットも多くある。高校生と繋がることで新入社員育成を図っている企業もあると聞く。そうした連携ができればいい。

第2回 2月27日

<コンソーシアム運営委員からの主な助言内容>

- ・近隣の職業に関する学科で住宅設計の授業を非常勤講師で担当しているが、3DCADで設計ができてしまう。鳳鳴高校の場合は、CADソフトなどのスキルにふりまわされないこと、先端技術に触れるだけでなく、次の論理的思考につなげるなど、その先の学びを考えることが大切である。

- ・「道具」を自らの問題解決につなげるということが重要である。
- ・過去7年間かかわってきて、生徒の探究力が確実についてきている。
- ・鳳鳴の取組みが市民に伝わっていない。同窓生、同窓会に頼ってこんなものが欲しいという要望を聞かせてほしい。
- ・オープンハイの役割はとても大きいので、さらに注力していただきたい。
- ・「生徒アンバサダー」という役割があり、自分のプロジェクトを自慢げに発信する役割で、トレーニングの必要がある。また、「キュレーション」という手法を利用するとよい。プロジェクトで生徒が生み出された成果物を絵やデザインなどでアピールし、校内を博物館のようにしていくと、発表の中身を聞かなくてもわかり、後世に伝えることもできる。
- ・中学生に自然と伝わるものと能動的に伝えないと伝わることもある。次年度に向けて前向きに考えてもらいたい。
- ・第1に、入ってくる生徒に何ができるか、何をすべきかを考えることが重要である。
- ・3Dプリンターやドローン、VRゴーグルなど充実した設備は近隣高校にはなく、技術にふれることは大切だが、それらを解決手段として活用し、そこから生まれた発想が大切である。
- ・探究に地元の小・中学生を招くとともに発表してもらうのもよい。さらに、探究発表に対して質問をする力が大切。自分を表現するという生徒の発表を教師が評価するだけでなく、生徒同士で評価するのもよい。
- ・STEAMラボ・STEAMスペースなどの施設設備の活用では、自然科学部のようなSTEAMに特化した部活動の活躍の場とし、市内外に発表していくのもよい。

○ 第1回コンソーシアム運営委員の助言による今年度の取組事項

- ・来年度のカリキュラムの中に先端企業等との連携を予定
- ・先端技術に関する教員研修及び生徒研修を実施
 - ① 3Dスキャナによるリバースエンジニアリング研修の実施
 - ② 3D-CAD研修の実施

⑤ コーディネーターの配置および活動内容

コーディネーターの配置

所属	氏名	期間
一般社団法人 BEET 代表	細見 勇人	7月～3月
自営業	西村 安紀子	7月～9月
元県立高等学校長	加藤 昌宏	11月～3月

コーディネーター活動内容

- ・ 学校職員とコンソーシアム等の地域関係者との連絡調整による関係づくり。
- ・ 探究活動への教員のかかわり方とスキルの向上について研究する。
- ・ 地域課題を生徒、教員とともに発見し、具体化する。
- ・ STEAM 推進教育の推進チームを牽引する。
- ・ 教科横断型の授業の推進を教員とは違った視点から支援する。
- ・ 学校設定科目のカリキュラム作成を支援する。
- ・ 中学校や地域団体等へ STEAM 探究科の広報を行う。
- ・ 地域のニーズに対応するためにカリキュラムの内容について助言を行う。
- ・ STEAM 特講について関係機関と連携を結ぶ。

(3) 新学科の設置及び設置に向けた検討状況及び関係者への説明の実施状況

新学科の設置改編状況

[現行のコース]		[改編後の学科]
普通科 自然科学系コース	⇒	普通科 STEAMに関する学科
「総合科学コース」		「STEAM探究科」
学年制		単位制
平成23 年度～令和5 年度		令和6 年度～

募集数 40名

検討状況 グローバル化の進展やSociety5.0 の到来等、変化の激しいこれからの時代に
対応できる新たな価値を創造する人材を育成するため、普通科総合科学コースを
普通科新学科のSTEAM 探究科に改編する。

総合科学コースでは、身近な自然や現象からテーマを設定し、観察力、分析力、
応用力を総合的に高める学びに取り組んできた。STEAM 探究科では、これまでの
の学びを更に発展させ、地域の企業や大学等と連携し、「丹波篠山」の歴史や文化
に、新たな価値を付加してデザインする学びを展開し、地域や国際社会で貢献で
きる人材を育成する。

関係者へ説明 近隣中学校長、教頭、進路指導担当教員に対して、本校校長、教頭、STEAM
探究委員会メンバー、コーディネーターが年間延べ4回以上訪問し、学科の
方向性や教育課程について説明を行った。また、オープンハイスクールにお
けるパンフレットや市の広報誌を通じて学科の紹介を広報した。

コーディネーターが地方新聞社（2社）や商工会、観光協会、市内施設（図
書館等）を訪問し、STEAM 教育に対する広報活動を行った。来年度は新学科
の生徒たちの学びを実際に見せながら、理解を得る計画である。

4月～5月	高等学校長による中学校長訪問説明
7月～9月	オープンハイスクール
10月～11月	本校STEAM探究委員中学校進路担当者訪問
12月	本校教頭による中学校訪問教育課程説明
12月～3月	コーディネーターによる関係機関、中学校訪問

(4) 成果普及のための取組

○中学校への普及

- ・オープンハイスクール、学校説明会で、生徒がファシリテーターとなって中学生に本校の探
究を見せるとともに、ミニ探究授業や STEAM 体験を実施した。
- ・篠山鳳鳴高校の授業と生徒の様子を中学生、保護者等に見学してもらい、本校の学びの環境
と落ち着いた雰囲気伝えた。

○取組の校外外への発信

- ・探究 Day のプレゼンの様子をリアルタイムで保護者等視聴希望者に Web 配信
- ・探究英語プレゼンで近隣在住の外国人に探究内容を発信
- ・シアトル語学研修の活動をホームページや広報誌等で発信
- ・探究授業の外部公開

○STEAM 探究科に関するポスター、チラシ、パンフレット、動画の作成

- ・教員、生徒、企業関係者等からアイデアを募り STEAM 探究科の魅力を伝えるポスター及
びチラシを作成
- ・印刷関係の企業の協力を得て、チラシやパンフレットを作成し、学区内の中学校などに配
布
- ・STEAM 探究科を含む本校の特色を伝える映像を作成し、市役所主催の高校紹介の際に中
学生に見せるとともに、市のホームページにも掲載してもらい周知を図る。

- 全県レベルの発表会やコンテスト等への応募
 - ・柔軟で幅広い思考を試すために数学理科甲子園に参加し、その成果もホームページで情報発信した。
 - ・兵庫県立高等学校探究活動研究会への参加
 - ・サイエンスフェア in 兵庫への参加
 - ・高大接続改革推進事業における合同ディベート参加
- 学校ブログ、Instagram などによる情報発信
 - ・学校行事や探究活動の様子、また発表会やコンテストの様子を SNS を中心に、Web 上で情報発信
- マスコミへの取材依頼
 - ・生徒の探究活動等を広く知ってもらうために、マスコミ各社へ取材依頼等を行い、取材を受ける。

(5) 他の事業との関係

本校は令和元年度から5年度までの間、兵庫県教育委員会から「高大接続改革推進事業」研究指定を受けており、今年度最終年度となる。この事業において、本校は3本の柱①「探究」活動の推進、②グローバル人材の育成、③学力向上 を立てて取り組んできた。

特に①の探究活動においては、本事業と重なるところが多く、これまでの流れを継続的にさらに進化させるために、本事業を実施してきている。また、②のグローバル人材の育成についても、幅広い視野で多様な価値観を理解できる人材を育成するために重要視している。

また、来年度は高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）の事業によって STEAM 探究の環境を充実させながら新学科の学びを充実させていく。

第Ⅱ部

「探究」の推進



(1) 令和5年度(2023年度)「総合的な探究の時間」年間スケジュール

月	1年1~3組	1年4組 総合科学コース	2年1~3組	2年4組 総合科学コース	3年4組 総合科学コース
4月	ガイダンス 分野希望調査 地域の魅力発見	ガイダンス ミニ探究開始 (課題の設定)	昨年の振り返り アクション実行計画	昨年の振り返り 仮説	昨年の振り返り 英語プレゼン準備 抄録作成
5月	iPad 共同編集説明 課題の設定	iPad 共同編集説明 ミニ探究開始 (情報の収集)	アクション実行計画	仮説 調査・実験の方法・ 計画	英語プレゼン準備 抄録作成
6月	課題の設定 分野別講演会 フィールドワーク計画	ミニ探究(情報の収集、整理・分析、まとめ、発表)、振り返り	アクション実行計画	調査・実験の方法・ 計画	英語プレゼン準備・発表会
7月	第1回探究 Day フィールドワーク計画	第1回探究 Day	第1回探究 Day	第1回探究 Day 3校合同中間発表会	第1回探究 Day アカデミック・インターンシップ
8月	フィールドワーク	学術分野決め 調べ学習	フィールドワーク (外部協力者と打合せ)	調査・実験	
9月	情報の収集 探究の道筋を確認	班分け 課題の設定	解決策実行・調査	調査・実験	
10月	情報の収集 探究の道筋を確認 整理・分析	課題の設定 リサーチクエスト	解決策実行・調査	調査・実験 整理・分析	
11月	整理・分析 スライド作成	リサーチクエスト 中間発表	解決策実行・調査、 振り返り、まとめ	整理・分析 まとめ・考察 スライド作成	
12月	中間発表 ポスター作成	リサーチクエスト ポスター作成	振り返り、まとめ スライド中間発表	まとめ・考察 ポスター作成 中間発表	
1月	ポスター作成 発表練習	ポスター作成 発表練習	まとめ、考察 ポスター作成	まとめ・考察 ポスター作成	
2月	ポスターセッション 振り返り	ポスターセッション 振り返り	ポスター作成 発表準備	ポスター作成 クラス内発表	
3月	第2回探究 Day	第2回探究 Day	第2回探究 Day	第2回探究 Day	

令和5年度 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校 第1回 探究 Day

日時 令和5年 7月 18日(火) 9:00~11:50

(ICTメディア教室から Zoom で配信)



(1) 1年生総合科学コースの代表生徒によるミニ探究発表

1 「やる気が出る言葉は何か」 6班

田淵日和、谷後煌、寺本敦士

2 「やる気が出る言葉は何か」 10班

森本脩太、山下奏乃、山下遼真、吉川颯太郎

(2) 2年生総合科学コースの代表生徒による中間発表

3 「幸せは人工的に作れるのか」

梅田里音 廣岡尚 船崎煌右

4 「勉強のモチベーションを上げる曲の特徴は何か」

團野真一郎 森本虎太郎 森本悠吾 安原昊生

(3) 2年生普通科の代表生徒による発表

5 「振徳堂の教育に学ぶ」

畑暁太 細見梁 山内詩織 山本芽衣

6 「高校生の通学を便利にするために

～バスの時刻と高校生の利用時刻との一致を目指して～」

甲浩行 八木晴美 金田恋樺

(4) 3年生総合科学コースの代表生徒による英語プレゼン

7 「The power of assumption ～What is the relationship to grip strength～」

「プラシーボ効果って本当？～握力と思い込みの関係～」

井戸碓彩音 近成秀太 中野佑香 畑菜々子

8 「Creating a community where people can enjoy life」

「生涯楽しく過ごせる地域にするために～私たちでもできる認知症ケアとは～」

上野凜 和田真琴 渡邊晴日

令和5年度 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校 第2回 探究 Day

日時： 令和6年3月6日(水) 8:50~12:40

(会場 篠山鳳鳴高等学校 体育館)



第1部 スライド発表

(1) 1年総合科学コース(4組) ~課題設定まで~

1 「スッキリ起きるには」

久見瀬環多 讃岐美緒 波部百花 福井瑛太

2 「人はなぜ自然を求めるのか」

竹村悠生 田淵日和 畠中健瑠

(2) 1年普通科(1~3組)

3 「住山ごぼうを広めたい」

植野千愛里 小川日千華 瀬戸さく良 西村つぼみ 吉田碧子

4 「篠山の人口を増やすために」

川田如珠 波部尚樹 木村心晴

(3) 2年普通科(1~3組)

5 「丹波地域の昔話に込められた思いを受け継いでいくには」

家永愛梨 西田圭佑 森田穂

6 「高校生の通学を便利にするために

~バスの時刻と高校生の利用時刻との一致を目指して~

金田恋樺 甲浩行 八木晴美

(4) 2年総合科学コース(4組)

7 「自分の勉強スタイルを見つけよう!」

大江陸人 竹見桃香 中野優美 村上珠基

8 「蓄電池~人間の活力と睡眠の関係~」

田土真菜 三島悠人 本橋小粋

第2部 ポスターセッション(全74班) 11:10~12:15

発表6分+質疑応答・評価5分+移動2分×4サイクル

※前半2回は奇数番号の班、後半2回は偶数番号の班の発表

